

# 自己評価および外部評価結果

<まんでんユニット>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄りそう心 つながる想い」の運営理念のもと、日々意識しながら実践に繋がっています。事務所内に掲示し、いつでも目に入るようにしています。	開所当初職員全体でどのような介護をしていきたいかを話し合い、「寄り添う心、つながる想い」を理念として掲げ、管理者と職員は共有し家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりに丁寧な対応を心がけ、サービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に町内会長、民生委員、地区の消防団員の方に参加していただいています。広報誌を発行し地域で回覧していただいています。近隣の方から作物を差し入れていただくこともありました。	地域住民の一員として、地域の共同作業への参加、実習生の受け入れやボランティアの来所その他、事業所を地域の中で知っていただくために、広報誌の回覧もお願いしたりしている。また、散歩の折には気軽に声をかけ合い、頂いた野菜を食材に活かす等良好な関係を築いてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣の地区ですが「医療・保健・福祉を考える会」に所属しており、定期的に行われる地域懇談会にて事業所の取り組み・実践等お話しさせていただいています。地元中学生の職場体験の受け入れをしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にて近況報告を行っています。出席者からいただいた意見をサービス向上に活かしています。	事業所の応援団としての運営推進会議も定着し、会議では状況報告及びサービスの実践について報告し、委員からの意見をもらいサービス提供に活かしている。また、いただいた意見の対処法についての報告も行っている。	会議にはメンバーがより生活の様子をイメージできるよう、利用者や現場職員の参加も進め、取り組み内容や具体的な課題を深め合い、サービス向上に活かしていくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や困った事は市役所の担当者にすぐに確認・相談・指導していただいています。	市担当職員との積極的な連携が構築されており、利用者の状況やニーズを伝え、必要時、気軽に相談、助言、連絡等の連携を深めている。	今後は包括支援センターからの協力も得られるよう、情報交換や相談、また利用者の生活の様子をみてもらえる機会も設ける等、積極的な連携を図っていかれることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルをもとに、法人内の研修で具体的な学びを実施し、身体拘束しないケアに取り組んでいます。	法人内の研修他、事例をあげての内部研修の中で具体的な学びを実施し利用者の尊厳を守るための認識を深めている。また、利用者の事業所内外の動きについてもさりげなく職員が付き添うなど配慮されている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルと外部で行われた研修会資料をもとに、内部研修を実施し、具体的な学びを実施しました。	外部研修の資料を基に内部研修で「高齢者虐待法」に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行なっている。また、職員のストレスが蓄積されないよう管理者は職員の様子を観ながら声をかけたり、相談事にも応じる関係性も築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修会の参加を通して、制度への理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧で分かりやすい説明を心がけ、理解・納得していただいたうえで署名、捺印していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時や電話等で意見、要望を聞き取っています。事務所カウンター前に意見箱を設置しています。	日々の関わりの中で利用者の何気ない会話の中から意見や要望を引き出せるように心がけ、家族からは毎月送付する手紙の中や面会時に問いかけ、何でも話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。いただいた意見は運営推進会議や朝礼時に話し合い、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で意見交換を行なっています。個人的に話をする機会を作るよう努めています。	職員会議やミーティングの他、管理者は職員個々とのコミュニケーションの機会も設け、何でも言い易い雰囲気づくりに配慮し、意見や要望を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しています。必要に応じて個別に面談の機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から希望のあった研修に参加できるよう配慮しています。同法人内で研修委員会があり、勉強会・研修会を実施し参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の事業所連絡会に参加しているが、職員間は法人内のみでしか持っていません。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前やケアプラン作成時にご本人から意見や要望をお聞きし、安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族と連絡を取り合い、入居者様の情報やご家族の意見・要望をお聞きしています。要望はホーム内で検討し、出来る限り実現できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居について入居者様の状態や気持ちを大事にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、洗濯物たたみ等を一緒に行い、ご本人ができることを継続できるような支援を心がけています。畑作業では入居者様からアドバイスをいただいています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や何かあった時はその都度状況をお伝えしています。毎月の様子をお手紙でお知らせしています。情報を共有することで共に本人様を支えて行くよう努めています。	家族へは毎月担当職員から本人の日々の様子や職員の思いを伝えている。受診時や衣替えの時期など、家族との協力体制も良く家族の役割についても話し合われている。また、情報提供も密に行われ共に支え合う関係性が築かれている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人、近所の方等の面会はいつでもお越しいただけるようにしています。今後もその方の地域での関係が途切れない方法工夫して行きたいと考えます。	どなたでもが立ち寄ることの出来る事業所としての雰囲気づくりに心がけ、友人、知人の面会時にはゆっくりと寛いでもらえるように配慮している。今までの地域との関係性が途切れないよう丁寧な支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見極めながら、必要時には職員が仲介役になり、入居者様同士が関わり合いながら生活が継続できるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、いつでも相談支援に努めるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのコミュニケーションを大切にし、その時々本人様の思いをお聞きしています。日常の会話や本人様の行動、表情などからも思いや希望の把握に努めています。それを記録に残し、職員全体で共有しています。	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心をはらい、日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから真意を推し測ったり、また、家族から得た情報等も記録に残し職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能な限りご自宅に伺い、本人様、ご家族様のから聞き取りをしたり、入居前のサービス事業所、担当ケアマネさんからも情報をいただいています。今後はセンター方式を活用して暮らしの把握をすすめ、より良いプラン作りにつなげていきたい。	入居前に、本人、家族、関係者、他事業所からもこれまでの暮らしぶりについての情報収集を行い、新たに得た情報についてもミーティング時に職員間で共有し、地域との関わりも大切にしながら本人に合わせた支援を実践している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録への記載により、一人ひとりの現状の把握に努めています。職員間で違った認識とならないよう、居室担当職員を中心にミーティング等で情報の共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人、家族、担当職員、計画作成が参加する担当者会議で検討し、意見交換を行っています。月に1回担当職員がモニタリングを行っています。	自宅訪問で得た情報を基に本人、家族、関係者で話し合い、気づきや意見、要望を反映した介護計画を作成し、毎月担当職員がモニタリングを実施している。	介護計画については本人の意向も聴きながらモニタリングを行い、本人の思いを反映させた具体的な介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子、それについてのケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに対応できるよう心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方に参加していただいたり、行事にボランティアの方を招いたり、地域のお祭りに声をかけていただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人様やご家族様にかかりつけ医を当ホームの協力医療機関にするか、今まで通りの主治医にするか希望をお聞きしています。	基本的には家族同行の通院介助となっている。急変時や家族の都合がつかない時は職員が同行し、医師に情報提供すると共に受診結果についても家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在ホームには看護師がおらず、訪問サービスも利用していません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には入院先の病院との情報交換、相談を行い、退院が決まった時は必要時カンファレンスに出席しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院が長期に渡ったり、常時医療行為が必要となった場合には退居となる旨、入居契約時に説明、同意を得ています。ケアプラン作成時に重度化や終末期の方針をご家族にお聞きし、またかかりつけ医が往診ができるかどうかも含め、相談支援しています。	事業所として出来る範囲について家族に説明しながら、緊急時は協力病院やかかりつけ医の往診や受診が可能か相談を進め支援している。	本人、家族の意向を確認しながら重度化した場合の終末期ケアの対応に関する指針を進め、研修、勉強会を重ね、医療機関の協力を得ながら、利用者、家族の安心のための支援体制の構築を期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についてのマニュアルを整備しています。消防署による救命講習に全職員が参加し、急変時に対応できるよう努めています。	事業所の実態に合わせた適切な対応が出来るように緊急時対応マニュアルを作成し、全職員で共有し研修に活かしている他、消防署の指示のもと心肺蘇生法やAEDの訓練も行い職員全員が習得している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを整備しています。消防署や地域の消防団立会いのもと、定期的な日中、夜間を想定した避難誘導訓練を行っています。	消防署立会のもと地域消防団の協力も得て、定期的に昼夜間を想定して避難訓練を実施しているものの避難経路についての定期的な確認までは至っていない。	災害時に対応できるように、食品や飲料水、排泄のための物品等の備蓄、加えて避難場所の確保や避難経路についての協議確認が急がれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修会に参加し、伝達・周知徹底しています。ミーティングで職員の言葉かけについて確認し合っています。	接遇研修を実施し職員が適切な言葉づかいやプライバシーの配慮について学んでいる。また、馴れ合いにならないように本人の人格を尊重したケアが行われるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活、会話の中に思いや希望が現れることがあるため、見逃さないようにしています。その思いや希望をくみ取り、以降に添うような支援に心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて日々快適に過ごせるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時はそのように身だしなみを整えています。居室に洗面台があるので、いつでも身だしなみに配慮できる環境です。自室に化粧品を置いている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事作り、盛り付け、配膳、食器拭き、テーブル拭き等、一人ひとりできることを職員と一緒にしています。	利用者の希望に応じてやりたいという気持ちを大切に、食材の買い出しやテーブル拭き、食事メニューの説明、配膳、下膳、食器拭き等を共に行い利用者の力を発揮させ、職員も共に食事を摂る等、食事の場が楽しいものとなるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態、希望に合わせた食事形態で提供しています。食事・水分量のチェックを行っています。食欲のない方には食べやすい携帯のものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の状態に応じた方法で口腔ケアを行っています。コップや歯ブラシ等の消毒も毎日行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄の介助を行っています。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本として表情やしぐさを見逃さないようにし、さりげなくトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常で体操や散歩をしたり、食事メニューを工夫しています。主治医と相談し下剤を服用していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日等での入浴日の決まりはありません。本人の意向をお聞きしながら、入浴間隔や体調・必要時に応じてお誘いしています。	入浴時間帯を決め実施しているが拒否のある方には、日にちを替えたり声かけを工夫する等、タイミングを見ながら一人ひとりに合わせて柔軟な対応が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通し、寝たい時には寝れる環境づくりをしています。冬場安眠を促すため、足浴を実施していました。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きをファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。薬のセット、服薬の確認は常に2人でダブルチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、得意なことをアセスメントし、希望を把握し希望に添うような支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関は施錠せず自由に屋外へ出ることができ、散歩や気分転換に外出される入居者様もおられます。普段の買い物も入居者様と出かけ、日帰り温泉旅行に行ったり、外食やお祭りにも出かけています。	利用者一人ひとりの状態や希望に添いながら、事業所周辺の散歩や買い物等の支援、日帰り温泉旅行や外食、地域の行事等利用者は外出を楽しむことが出来ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭管理はしていません。個人的にお金を持っている方もおり、買い物支援しています。ご家族が財布を確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話をかける援助をしています。届いた手紙の返事を書くお手伝いをしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳コーナーやこたつを用意しており、今後も入居者様の生活に合わせた環境をつくって行きたいと考えています。	ゆったりとしたホールの畳スペースには炬燵が備えられ利用者の憩いの場となるよう配慮されている。行事の写真や作品の掲示も利用者の励みとなっており、共用の場所は整理整頓がなされ何方でもが快適に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士、居室に行かれ話をされていることもあります。畳コーナー(冬場はこたつを設置)や玄関前、玄関外に椅子を置き、一人でまたは数人で過ごす空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持ち込んでいただくよう説明しています。ベッドや家具等の配置もご家族と本人様と相談して決めています。	自宅で使いなれた物や好みの物を持参していただき、自宅と変わらない居心地を感じてもらえるように配慮している。家具の配置等も安心感を得られるように相談しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、廊下には手すりが設置されています。トイレは分かりやすいように配慮しています。		